

あいち障害者センターNEWS(号外)

2024年 3月
(講師派遣・研修版)

発行：NPO あいち障害者センター

名古屋市熱田区神宮 2-3-4 もやいビル TEL052-682-7911 FAX052-682-7916

メール asc732@spa.nifty.com (講師派遣・研修用) ホームページ <http://www.npo-asc.jp/>



講演する近藤直子さん(奥)

信濃毎日新聞

2024年

1月23日

障害ある子の困った行動 どう対応

長野で日本福祉大の近藤直子さん講演
「好きと選んだものを尊重して」

障害のある子どもが周囲の大人から見て困った行動をした際にどう対応するかを考へる学習会が21日、長野市の県高校教育会館で開かれた。日

本福祉大(愛知県)名誉教授の近藤直子さんが「子どもが困ったところを、いねいに見つめる」と題して講演した。

近藤さんは保育施設の教室に入れない4歳男児の例を紹介。男児はひもを振って遊ぶのが好きで、いつも別室で振り続けていた。付き合うに疲れた保育士に近藤さんが提

案し、ひもをリボンに替えて「新体操ごっこ」に改良すると複数の女児が遊びに加わり、男児は教室に入れるようになったという。

「本人が好きだと選んだものを尊重してほしい」と近藤さん。また、大人は説得したり叱ったりして子どもに行動変容を求めがちだと指摘し、

「例えば、子どもが泣いている姿も意見表明として理解してほしい」とした。

学習会は県教職員組合障害児教育部などによる実行委員会が主催。県内外の保護者や学校関係者らが参加した。



2024年1月21日、近藤直子氏の、長野での講演が地元の信濃毎日新聞に取り上げられました。ひもを振って遊ぶのが好きで、保育室に入れない4歳男児の例の紹介。付き合う保育士さんは疲れてしまいますが、ひもを「リボン」に替えて、ひも振りを「新体操ごっこ」に替えることで、保育士さんも楽しくなり、他の女児も遊びに加わり、男児は保育室に入れるようになった……。男児とともに、優雅にパフォーマンスする保育士さんが目に浮かびます。管理人も大好きな事例です。

「子どもたちは、生き生きと楽しい毎日の生活を求めています。自分の気持ちを受け止めてくれるだけでなく、楽しさを膨らませてくれる大人と、自分を認めてくれる仲間を求めています。どの職場も職員体制が厳しく、大人はバタバタと忙しく、子どもの思いを汲むところのゆとりが無くなりがち。だからこそ、あらためて子どもが求めていることを考え合い、学び、語り合うことが求められるのだと思います。コロナがらみで話し合いや交流の時間が減ってしまった職場もあるかと思いますが、子どもも家族も、そして職員も生き生きと楽しい生活を送りうるように、手を繋ぎ合いたいですね。」(近藤直子)

【雑感】 管理人（事務局）は大騒ぎ

最近、保育園や作業所等々での不適切な支援のニュースが多く報道されているように感じています。

家庭においても、訪問介護においても、同様の課題は多々あるのではと思います。

管理人は、関わるヘルパーさんへ、下記課題を投げかけました。

普段の行動や声掛けはどうか？

よかれと思って行ったことは、本人のためですか？

あなたのためですか？

気づかないうちに、本人の意思や自由を制限したり、妨げるような支援をしていませんか。

ささいな事柄でも、知らず知らずの内に、無意識に本人にとっては不本意である不適切な支援をしていることって、意外とあるものです。障害の特性や理解、支援者としての知識、情報共有が求められています。

代わり映えのしない毎日の生活の中で、当たり前前に繰り返されているささいなことが、実は本当は当たり前であってはいけないことではありませんか。

その当たり前を、お互いが知らず知らずに、当たり前として受け入れていませんか。

気にもとめていなかったこと、考えてもみなかったことが、問題や課題として表面化していないことって多々あると思います。

大切なことは、「気づくこと」だと思います。

あえて、一歩立ち止まり、普段と違う行動をとること、見方をするすることで、「気づきの力」を得ることはとても重要かと思います。

自分自身はどうなんだろうと振り返ると、「あるある」です。

相方の介助は、いつも管理人の顔色とタイミングをみて行われています。

管理人がうたたねしているときに声をかけても動いてもらえません。

中腰での介助は、いつも管理人の（腰）イタタタ〜で終了します。

相方は、お疲れ様〜と声をかけてもらうことはありませんが、

いちいち目くじらを立てていてはお互いにしんどいばかりです。

そんな待遇を受けている相方の心境は、いかなるものか。

そのことに気づいていながら、管理人はどう生きるのか、どう考えるのか。

2024年3月3日 センター講座



障害のある子どもたちと付き合って53年。
子どもたちのステキさ、子どもの世界の面白さをたくさん
教えてもらってきました。
障害があると特別な「療育」が必要だと思っている方、
「療育」って保育とは違う何か
すごく特別なことだと思っている方、
子どもの可能性を輝かせるために必要なことは何なのか、
考え合ってみませんか。

療育とは？

療育と保育は何が違うの？

講師：近藤 直子 氏

(あいち障害者センター理事長・発達心理学者)

2024年 **3月3日(日)**

13時00分～16時00分

会場 **あいち障害者センター2F研修室と**

オンライン(zoom)参加との併用

※地下鉄名城線熱田神宮伝馬町駅、名鉄本線神宮前駅から徒歩7分

■受講料 **3000円** (会場定員12名)

※賛助会員割引あり



発達心理学者。1950年、東京生まれ、大阪育ち。京都大学、同大学院で学ぶ。日本福祉大学子ども発達学部教授・全国障害者問題研究会愛知支部長を歴任。全国発達支援通園事業連絡協議会会長。あいち障害者センター理事長。

著書に、「3歳までの親子支援と保育・療育」「気になる子の秘められた魅力」

あいち障害者センターの事業紹介

学び、交流しましょう！



子どものこと、仲間のこと、「ああ、みんな同じなんだ」「ああ、そう考えればいいんだ」「あるある～」を、家族も、支援者も、関わるみんなで思いを共有し、今のこと、明日のこと、ホッとできる時間を過ごしましょう。どなたでも参加できます。

- センター2階 研修スペース（名古屋市熱田区）
- ▼ 会場の定員 12名程度（申し込み順）
- 各回参加費 3000円～（各回内容により異なります）
- ▲ 開催方法 ①会場のみ、②オンライン（Zoom）併用（申し訳ありませんが、オンラインの方も同額でお願いします。）
※センター賛助会員（団体・個人）割引あり

これまでのミニ講座

- *子ども・なかまの見方と記録・その勘どころ（竹沢氏）
- *コロナ禍で三兄弟の親は黙ってられない（浅野氏）
- *気になる子の秘められた魅力（近藤氏）
- *「問題行動」からホントの願いを（竹沢氏）

企画準備中！

こんな曜日に、こんな時間に、こんな話を聞いてみたい…

※日時も含め、ご要望にあわせた講座を企画します。



講座に参加して

- ★私の孫は自閉症です。研修を受けるたびに孫のことを頭に置いて勉強している。
“人間を深くとらえる” そうだったのかとわかるとおもしろい。聞けば聞くほど人間相手のお仕事はむずかしい。障害への理解と深さを身につけていきたい。
- ★これまでかかわった仲間たちの「あるある」を思い出しながら、手探りでやってきたことが間違っただけではなかったことに安堵し、また頑張ろうと思う。



【書籍の紹介】

3歳までの親子支援と保育・療育 「こども家庭センターのあり方をさぐる」

初版：2023年11月

編著：近藤直子・全国発達支援通院事業連絡協議会
発行：クリエイツかもがわ



【書籍の紹介】

子どもと保護者の発達を保障するために 子どもたちに幸せな日々を

初版：2018年6月

著者：近藤直子
発行：全国障害者問題研究会出版部



あいち障害者センターの事業紹介



【出前講座】近藤先生のこどもの発達基礎講座

(1回コース・2回コース・3回コース)

近藤直子著書「子どものかわいさに出あう」をテキストに、

1. 発達とは何か？ 2. 乳児期の発達と「1歳半の節」
3. 2歳から3歳の自我の発達 4. 4歳、5歳のこころの発達
5. 学童期の発達 などをテーマとし、子どもらしいかわいさを発見し、子どもを応援できる手がかりとなるような発達の「学び」を願っています。

いくつになっても発達はある。発達の節目節目を見逃さないで。

発達保障の基礎、初任者研修におすすめ！

※テキストとして近藤直子著書「子どものかわいさに出あう」の購入が必要。



【出前講座】近藤先生の気になる子の秘められた魅力

近藤直子著書「気になる子の秘められた魅力」をテキストに、

「保育室にいてくれない」「暴言・暴力が目立つ」偏食がきつい
保育の場でよくあげられる、気になる行動の理由にせまったら、
みんなと違って気になるところを魅力に変える手がかりがみえてくる。

保育者のみなさんへ、そして園長さんへのエールです。

※テキストとして近藤直子著書「気になる子の秘められた魅力」の購入が必要。



【出前講座】竹沢先生の障害のある仲間・子どものとらえ方講座

発達・発達保障について、現場での実践経験を踏まえた豊富な事例をもとに

1. 子ども・障害のある仲間のとらえ方と理解・働きかけ
2. 読み手に伝わる記録の書き方

などをテーマとし、講座を通して日々の支援の振り返り、
確信、支援のヒントなどをつかみ取っていただきたいと思います。
放課後等デイサービス、放課後児童クラブの指導員さんだけでなく、
成年期の仲間に関わる職員さんにも聞いてほしい。

捉え方で見方が
かわる、働きか
けがかわる、仲
間がかわる。
実践現場の職員
におすすめ！

※出前講座は、障害児から者まで、対象となる年齢層に合わせて講座内容をアレンジいたします。



「学び」を職員みなさんの共有の財産にするために、 あなたの事業所に何う「講師派遣」事業を行っています。

障害のある人が、住みなれた地域で暮らし続けられるための制度改正が進められてきています。日本が2014年に批准した国連・障害者権利条約は、障害者の「固有の尊厳、個人の自律（自ら選択する自由を含む）及び個人の自立を尊重すること」、「差別されないこと」、「社会に完全かつ効果的に参加し、及び社会に受け入れられること」等（第三条）を求めています。しかし、障害のある人や家族への負担は増すばかりです。

こうした中で、障害のある人や家族とともに一歩でも前に歩める、障害者児の日中活動や暮らしの場における支援の在り方や職員の力量のアップが求められています。

「学び」を職員全員の共有の財産にするために、あなたの事業所に伺います。

※講師派遣（講演）は、ご希望の内容をふまえ、講演内容を相談いたします。
※センターにご協力いただいている多彩な方々が、成年後見、親の立場、当事者として、得意分野を語ります。



障害のある人や子ども、
そして家族の気持ちや思いが
わかると、毎日の取り組みが
少し楽になる。

うんとたのしくなること
だってある。



講義や読書が苦手な人も
楽しく学べる講座。

オンラインで便利に
なったけど…やっぱり
対面がいいなあ。

リピーターも多いけれど
初心者大歓迎！

センター事業の利用と賛助会員加入のお誘い

皆様には、私たちの取り組みに賛同をいただき、センター事業活動大にむけてご協力をお願いいたします。応援募金にもご協力ください。

団体賛助（法人・事業所）年間 10000 円 / 個人賛助 年間 2000 円